

「共に力を合せて前進しよう」

～一人で苦しまないで欲しい～

「各々銘々へとてんでんばらばらに人知を超えた才を恵むのは一つの霊であり、同じ霊。人の体には多くの部分や器官があるが、その各部分が結び合わされて、1つの体が成り立っている。救世主(キリスト)の教会(からだ)についても、同じことが言える。」1コリント12章11・12節 [アライブ訳]

3. 11から8年が経過します。長いようで短い期間だったと感じます。被災地の復興は思いの他進まない状況で、いら立っている方々も多くおられる状況です。それでも、前に向かって前進しなければならない状況があるのも現実です。被災地の諸教会も必死になって地域の復興のために尽力されています。祈り応援していかねばなりません。

私たち一人一人は弱い、小さな存在ですが、それぞれに神様から能力、財力、持てる力を頂いています。問題はその力が大きいか小さいかではなく、どのように力を合わせるかということが重要であるとパウロはこのコリント書で語りたかったのではないかと思います。

13章は「賜物の章」、14章は「愛の章」と呼ばれます。しかし、それは共通していて、教会に与えられている素晴らしい神様の恵みについて書かれています。どれくらい賜物や能力が存在するかではなく、それは人間の数だけあるかもしれない。しかし、それぞれが、素晴らしい神様からの能力を用いることができるのは、教会で兄弟姉妹と共に力を合せて、主の愛の働きをするために与えられているものであることを自覚しなければならぬ。

経済動向指数が-2.7と出されましたが、この世の中の力—お金の力、経済の力—はどんどん弱められて、ゆがめられていきます。しかし、最後に神の愛の働きを進めていくことができる教会の働きこそ、人々が必要とするものとなると信じています。

そんな中で大切にしたいことは、“決して一人で苦しまないで欲しい”ということです。一人で苦しまない方法は、どんなときも、一人で過ごさないことです。元気でいるとき、調子が良い時である今のときから、共に歩いて欲しいということです。いざという時には、もう遅いのです。ギリギリなのはとても辛いですし、もったいない。早く、心を変えられて、共に歩いて欲しいと願います。私たちは皆孤独な存在です。力を合わせなければならない存在です。今は感謝なことに、メールはありますし、ラインもあります。フェイスブックもありますし、ツイッターもあります。できる限り、“つながっている”必要があると感じます。その強固なつながりを持つことができるなら、どんな大きな問題が襲ってきても、共に前に進むことができます。

「愛は人に見切りをつけることがない。

愛はどんな時も希望を捨てず、あきらめず、最善を信じる。

永遠に残るものは3つ。信仰、希望、そして愛。

その中で一番偉大なのが愛だ。」1コリント13章7・13節 [アライブ訳]